

科目コード	S24103	科目名	構音・音声障害				
履修区分	必修	開講期	1年後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	木戸 直博						
授業の概要	小児にみられる器質性構音障害（口蓋裂）の症状、原因疾患、治療法、評価法、訓練法について学ぶ。						
DPとの関連	人間を広い領域から捉え、人を愛する心と専門技術を統合できる能力を身につける						
	言語聴覚障害学について深い専門的知識を修得し、それを臨床において適切に応用することができる能力を身につける						
	職務遂行に必要な社会性、倫理観、専門職業人としての自覚を身に付け、多様な患者、家族、医療・福祉関係者等と円滑なコミュニケーションを取ることができる能力を身につける						
	複雑で多様な障害について常に科学的に探究する姿勢をもち、積極的に自己研鑽し続ける能力を身につける						
到達目標	DP：ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）= 修了までに身に付けるべき資質・能力 ・口蓋裂の治療体系について学ぶ。 ・鼻咽腔閉鎖機能および口蓋裂異常構音をその構音動態を含めてよく理解し訓練につなげる力を習得する。						
履修上の注意事項							
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	口唇口蓋裂治療の流れ				口唇形成術、口蓋形成術、顎形成術についておおまかに予習しておくこと	
	2	鼻咽腔閉鎖機能				鼻咽腔閉鎖に関与する筋について事前に確認しておくこと	
	3	鼻咽腔閉鎖機能の評価（演習）				鼻咽腔閉鎖閉鎖機能について、その程度、閉鎖パターン、形態比について復習すること	
	4	口蓋裂言語概論				開鼻声について理解すること	
	5	口蓋裂異常構音1（鼻咽腔閉鎖機能不全に関連するもの）				子音の弱音化、子音の省略、声門破裂音について正しく理解すること	
	6	口蓋裂異常構音2（鼻咽腔閉鎖機能不全との関連が低いもの）				各異常構音の産生機序について復習すること	
	7	構音訓練法				日本語母音、子音について音声学的な知識を事前に整理しておくこと	
	8	構音訓練法（演習）				各子音の構音点法による指導方法を復習しておくこと	
成績評価方法	小テスト20%、期末テスト80% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
参考書	口蓋裂の言語臨床【岡崎恵子ほか】（医学書院）					978-4-260-01239-3	
教員からのメッセージ	発声発語器官の解剖、機能を理解しておいて下さい。						
教員との連絡方法	講義終了後、教室で。 授業時以外は教務課に連絡してください。						
実務経験のある教員	病院において臨床経験のある言語聴覚士が、実務経験を活かして講義を行う。						